

松瀬 博夫

まつせ・ひろお 医師 20 年目
久留米大学病院リハビリテーション部

高度救命救急センターを有する大学病院で、主に急性期リハビリテーションの診療を行っています。また、大学院を含めてリハビリテーションに関連した研究・教育活動も行っています。主なテーマは、「身体の不活動状態により生ずる二次的障害予防」、「慢性疼痛」、「電気刺激療法」です。これまで多くの書籍を参考にしてきました。そのなかから、研究にだけでなく臨床にも活かすことができた書籍を紹介します。

後輩に薦める 2 冊



基礎運動学 第 6 版

中村隆一，齋藤 宏，長崎 浩 著
医歯薬出版 2003 年

新しい書籍ではありませんが、リハビリテーション科医を目指すうえで、運動学を勉強する時に大いに役立ってくれた思い出深い 1 冊です。構造と機能、代謝、運動と制御、分析、発達、学習まで 1 冊に簡潔にまとめられているので、運動学の入門書としてお勧めです。また、図表が多いので、手元に置いてちょっとした確認や調べものをする際にも便利です。ただし、内容に一部誤りがありますので、出版社サイトの正誤表を確認して下さい。



EBM 物理療法 原著第 4 版

Michelle H. Cameron 原著，渡部一郎 訳
医歯薬出版 2015 年

日々の診療でさまざまな物理療法を処方していましたが、本当に正しく理解して使用できているか自信がありませんでした。そんな時に出会った 1 冊です。物理療法の基礎、メカニズム、効果、適用、具体的症例などが包括的にまとめられ、正しく効果的な治療法の選択に役立てることが出来ます。また、エビデンスや研究報告に関する記載があるため、物理療法の課題も知ることができ、研究にも活かすことができる 1 冊です。

自分の 1 冊



宇宙飛行士は早く老ける？ 重力と老化の意外な関係

ジョン・ヴァーニカス 著
向井千秋，日本宇宙フォーラム 監修 白崎修一 訳
朝日新聞社 2006 年

タイトルどおり、加齢によって身体に生じる変化と微小重力空間に長期滞在する宇宙飛行士に起こる変化が似ているという内容です。とても読みやすく、誰もが知っている医師で宇宙飛行士の向井千秋さんが監修というのも魅力的です。長期臥床による二次的障害だけでなく、近年の社会問題である身体活動・運動不足による生活習慣病も同様です。「重力」がいかにわれわれの健康に欠かせないものか考えさせられる 1 冊です。